ＥＭほっかいどう　2017 年 3 月　第 84 号　　発行責任者　細川義治

EMほっかいどう

ＥＭで環境浄化

目　　次

１．弔電　　・・・・名誉会長　比嘉照夫　1

２．弔辞　　公益財団法人　自然農法国際研究開発センター
理事長　伊藤明雄　1

３．理事長挨拶　　・・・・・・・・　細川義治　4

４．萩原さんを想う　　Web エコ・ピュア編集　鹿島祐子　7

５．萩原先生との思い出　　(有)システムバイオ　清杉強　8

６　萩原俊昭さんの思い出　　・・・・副理事長　竹下容子　10.

７．萩原所長の思い出　　・・・・元理事　伊藤玲子　11

８．萩原さんの想い出
ＮＰＯ法人ひまわり会　わーく・ひまわり　宮田英次　12

９．追悼の言葉　　・・・・・理事　廣瀬英雄
萩原俊昭様のこと　　・・・・・監事　本間弘二
お別れの言葉　　・・・・・会員　松田孝子　13

10．萩原俊昭さんを偲んで
旭川ＥcoMクラブ西神楽　顧問　高野雅樹　14

11．総会議事録および資料　　・・・・・・・・・・・　15

12．情報交換会の予定と新理事紹介・・・・・・・・・・・・・　18

表紙写真　撮影者　浦崎毅子会員　　撮影場所　青森県弘前市

＊ＷＥＢエコピュア　朱鞠内　宮原光恵さんの記事は誌面の都合で今回は掲載を見送らせて頂きました。次号から再び掲載していきますので、お楽しみにお待ち下さい。

NPO 法人　北海道ＥＭ普及協会　札幌市厚別区厚別東 5 条 3 丁目 24
TEL：011-898-9898　FAX：011-898-9798
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　info@em-hokkaido.org
ホームページ http：//em-hokkaido.org

萩原俊昭様のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。
ご生前の萩原様の北海道における自然農法の普及と発展に関する
御功績は永く歴史に残るものです。
ここに改めて、これまでのご協力に対して深く敬意を表し、心より
感謝申し上げ御冥福をお祈りいたします。

名誉会長　比嘉照夫

弔辞　　公益財団法人　自然農法国際研究開発センター　理事長　伊藤明雄

謹んで萩原俊昭さんの御霊に対し､感謝と哀悼の意をもってお別れの言葉を捧げます。

萩原さん、萩原先輩の訃報に接し惜しんでも惜しみきれない思い出がいっぱいです。

萩原さんは、平成 26 年 9 月、これまでの色々なご無理が嵩じて、腎臓の機能低下により病院に入院され、透析をおこなうことになり、通院が始まりました。

そのような体でも平成 27 年 1 月 30 日には北海道有機農業生産者懇話会の総会で自然農法の雑草対策について発表され、参加者から好評を得て、総会後色々な人から相談を受けたとメールで私に連絡がありました。その後、萩原さんから 3 月 3 日にメールがあり、血管の手術をしなければならなくなり、医大病院に入院すると連絡がありました。その際、「検査と手術で約 3 週間で、そんなに難しい手術でないそうだよ」とのことでした。

しかし、12 日に体調が急変し、心臓停止状態に陥り、蘇生処置を施して心臓が機能回復しましたが、意識が戻らない状況になっているということをお聞きしました。

平成 27 年 4 月 19, 20 日、私は札幌医大病院にお見舞いに行き、萩原さんの人工呼吸器を装着した状態を目にしたのでした。萩原さんと何度も声をかけても応答はありませんでした。手足を触りましたが動く気配はありません。本当に悲しくなりましたが、萩原さんは「少し休ませてよ」と言っているように思いました。たったの 2 日間でしたが、病院にお見舞いし、早い回復を祈りながらベッドに寄り添いました。その後、奥様から度々ご主人のご様子をお知らせいただき、ただひたすら一日も早く元気になっていただくようお祈りする毎日が続いておりましたが、こんなに早くお別れしなければならないとはいまだに信じられない気持ちです。

萩原さんとのご縁は、今から 25 年前、私が自然農法の普及の担当をした時からでした。私はまだ新米で、静岡と神奈川を担当しており、萩原さんは広大な北海道を担当され、先輩として当時から色々なアドバイスをしていただいてきました。特に自然農法の創始者の願いや、当時初めて自然農法に導入した有用微生物ＥＭの有効性に

ついて熱く語っていただきました。その後、私が関東地区に転勤してからは、さらに交流が深くなり、自然農法とは何か、農家の皆さんや人々がどうしたら自然農法で幸せになっていただけるかなど、私にとっては指針となる貴重なアドバイスをいただき元気づけられておりました。また、私が後輩の身でありながら管理職の仕事に移ってからは、さらに弟を可愛がるように親身になって不慣れな私を励まし、また悩みも聞いていただき、陰ながら支えていただき本当に助けられました。

萩原さんは、広大な農地を有する北海道で、北海道地区普及所長として、我々にとって一番難しい大規模農家への自然農法の普及に命を懸けるがごとく走り回り、農家さんと一緒になって課題を解決するために悩み、語らい、その結果、国内でもモデルとなるような実施農家が誕生していきました。萩原さんが残された数々の事績は私共自然農法センターにとってもかけがえのないものとなっております。

萩原さんは、平成 24 年長年お勤めいただいた自然農法センターをご退職になりましたが、退職後も当財団の自然農法指導員としてボランテイアで普及のお手伝いをいただき、その姿勢は我々の鑑となっております。まだ元気だった平成 25 年 3 月と 8 月に私宛のお手紙をいただきました。その内容は、世界の食料・健康問題を解決するために自然農法センターが今後何をすべきかという将来への提言書でした。萩原さんは「農業技術だけではだめだよ、その土台となる考えや哲学が大切だよ」と自然農法の解説書の制作と出版を強く訴えておられました。当時まだ体系的に十分整理されていなかった状況を憂い、早急に着手することをにじませておられました。私はその提言を受け、内部での整理に取り掛かりました。まだ完成には至っていませんが、その思いをしっかり受け継ぎ実現していくことをお誓いします。そして、この萩原さんの遺言ともいえる提言書を大切にし、萩原さんが願い続けた自然農法の世界普及に今後も役職員一同邁進してまいります。

萩原さん、もう一度、萩原さんのお好きだったビールを飲みながら明日の日本を語ることが出来なくて残念です。萩原さん、霊界でも余り飲み過ぎないようにして下さいね。

終わりにお残しになられた奥様やお子様のことは、お心残りでしょうが、私たちでできる限りお支えさせていただきます。安心して霊界へお旅立ちください、そして、また、霊界からご家族を始め私たちを応援してください。

萩原さんへの惜別の思いは語りつくすことは出来ませんが、萩原さんと苦楽を共にさせていただいた五十名のＯＢ・職員を代表して、心からなる感謝とお誓いを捧げ、お別れの言葉とさせて頂きます。

平成 29 年 1 月 26 日

理事長挨拶　　細川義治

1月24日、一昨年の3月から入院されていた萩原俊昭理事が亡くなられました。

「血管が詰まり気味なので、掃除してくる。2、3週間くらいで退院するから」と言っていましたが、尿道からのチューブによる検査の引き抜き時に、強い痛みを感じて、それからは排尿時にも痛みを感じるようになり、ロレツも回らなくなってきました。そして、容体は急激に悪化し、子供たちも皆駆けつけました。意識不明の状態でしたが、翌日、何事もなかったかのように目を空けました。皆を心配させただけでした。しかし、1週間後には、話すことも出来なくなり、また、意識が戻らなくなりました。

それからは、足を触った時に少し動いたり、閉じたままの瞼がピクリと動いたりと、生体反応がありましたが、まるで、植物人間のような状態が続きました。

夏には、忙しい合間をぬって、比嘉先生がお見舞いに来てくれました。「萩原さんはみんな聞こえているから」「大丈夫」と笑顔で言われて帰られました。

家族が招集される状態まで悪化したことが何度かありましたが、その都度、「俺はまだ逝かないよ」と言わんばかりに「復活」しました。

そんな様態が長く続いていましたが、1年１０か月目の昨年12月、それまで続けていた「透析」が出来なくなりました。「血液の浄化が出来なくなるので2，3日もつかどうか」と言われましたが、奇跡的に正月を越しました。

1月24日11時2分、呼吸が少しずつ浅くなっていき、本当に静かに最期の息を吐いて逝ったそうです。沢山の家族に見送られて、幸せな人生の幕を閉じました。

萩原さんと初めて会ったのは、今から 24 年前の夏でした。ゼネコンに勤めていた私は、「ＥＭ農法」という冊子に載っていた自然農法国際開発研究センターの札幌事務所に電話したのです。そして、ＥＭの事を知るために札幌の寿司屋さんで会い、ＥＭの事を聴いたのです。旭川を中心に農家に広まって来ていることを聞き、そして、翌春には、札幌の企業が数社集まって、ＥＭ関係の組合を作ることになるので、職員として参加することを勧められ、私のＥＭ活動が始まったのです。

翌年 4 月から厚別の事務所・工場作りが始まり、静岡からはＥＭ研究所の職員が、ＥＭ製造の設備の造成に来られ、翌月からＥＭ製造が始まりました。萩原さんは、毎日、発酵状態を調べながら、ＰＨがきちんと下がって商品としてのＥＭが完成した時には大喜びで、皆で美味しいお酒を飲みました。お互いにアルコールには目がない方だったので、外で飲んだ時などはかなりフラフラになるほどでした。工場の裏に家族で移って来たこともあって、時々は、家にお呼ばれすることもありました。

5人の子供たちは皆明るく、楽しく飲ませてもらいました。日中は、子供たちと遊ぶこともありました。また、子犬コロをもらってきて育て始めたのもこの年でした。

「コロは、俺よりなついているなあ」と嫉妬混じりに言われたこともありました。
　また、この年、比嘉先生の「地球を救う大変革」が発刊され、ＥＭが全国的なブームになり、全道各地から、事務所への沢山の来訪者がありました。いつも、楽しそうに面白くＥＭの説明をして、皆さんの気持ちをＥＭに向かわせていました。
　地方にも良く出かけました。遠くは、ＥＭ活性液を使うことで良質なヒトデ肥料を作っていた稚内の石崎商店さんや､有機農業を早くから手掛けていた富良野の今さん、独自の牛乳作りをしている函館牛乳、町長さんと親しい人が紹介してくれた別海町、ここには、年に数度訪問し、町営温泉で毎回町長さんと元組合長を交えて、杯を重ねました。時々は、中標津に前泊して翌朝に別海町ということもありました。二人で飲みながら色々な話題で話は尽きませんでした。
「昆虫の擬態」？昆虫が自ら考えて、自分の身体を葉っぱに似せたり、カマキリのように枝に見えるように変えていけるのか？人間も脚を長くしたいとか目を大きくしたいとか、思っていれば少しずつ変わって行けるのか？などと答えのないやりとりをしたこともありました。最後には、やっぱり神様のような存在がないと無理だ、と話は落ち着いたものでした。
　小さい頃に高い所から落ちて、頭を打って気絶した時から、自分の性格が大きく変わったと言っていました。何か違う人格が入ったような感じだったそうです。
　スキューバダイビングの資格を持っていた関係で、水難事故の遺体捜索にも何度か駆り出されたことがあるけれど、水が濁っていて見えない状態の時でも、なんとなくボーッと光る感じのする方向に行くと見つけられたとも言っていました。
　また、ある宴会での話。綺麗な女性が隣に来て歓談していたのだけれど、顔を突き合わせて話していたのが終わって、その後、違う方を見て、ふと、振り返った時、その女性が斜め向こうに視線を向けた顔を見て驚いたそうです。完全にキツネが取り付いた顔をしていて、こちらの視線に気付いた時には、綺麗な顔に戻ったそうです。
　不思議な話はまだあります。
　定山渓温泉で、案内看板の説明を読んでいると、この記述には間違いがあるとのインスピレイションを受け、事務所に行き、この出所が違うのではないですか、と伝えておいたところ、後日、やはり、違っていました、と連絡が入ったそうです。
　さらに、かなり前の話と言いながら、平取付近に一人で住んでいた知人が亡くなった後、夢枕に現れた当人が、大事な物をフスマの間に隠してあるから、家族に伝えてほしい、と言ってきたので、ご家族に伝えたところ、通帳などが出てきたそうです。
　その話を聞いた時は、やっぱりそういう事はあるんだなあ、くらいに思っていましたが、肉体を失ってからも、魂は存在するようで、横浜に住んでいた私の兄が横断歩道を渡っていて、車に轢かれて明け方に病院で亡くなった時には、岩見沢に住む母親に弟の身体を使って「早く死んでしまって御免ね」と何度も泣きながら言ったそうです。その時の話し方は確実に兄だったと母は言っていました。

沖縄で開かれていたＥＭフェスタにも、沢山の会員さんに声かけして、団体として旅行会社にツアーを企画してもらうほどでした。現在は持ち回りで全国の主要都市で開催されている全国ＥＭ技術交流会も、昔は横浜、京都で隔年で開催されていましたが、その時も、一生懸命に参加人数を増やしていました。時には 30 人以上を引き連れて、大会は 2 日間で終わるところ、1 日滞在を伸ばして、沖縄の観光地巡りをしました。11 月の沖縄は気候もちょうど良くて、楽しい時間を共有しました。

私は参加できませんでしたが、北朝鮮での国際大会にも大勢が参加し、ついでに寄った中国では、元理事の酒井さんも同行し、万里の頂上の高台まで体力が持ちそうもありませんでしたが、「ここまで来たんだからもうひと踏ん張り」の萩原さんの激励で登り切った時は本当に気持ち良かった、と酒井さんが言っていました。

普及協会の発足当初から女性 3 人の理事伊藤玲子さん、酒井秀子さん、渡辺正子さんは、紙芝居仕立てでコメのとぎ汁発酵液の使い方などの普及をしていましたが、それも萩原さんのオダテに乗せられて、初めは恥ずかしいから嫌だ、などと言っていたのが、進んであちこちに出向くようになったのでした。

私がＥＭ活動を始めてから 3 年目の時に、ＥＭの企業組合を離れなければならなくなった時に、比嘉先生が沖縄の研究機構で引き取ろうか、と言ってくれたそうなのですが、北海道のＥＭ普及に私が必要だと萩原さんが言ってくれて、道内で活動を続けることになったのです。出ていたらどうなったのか、根無し草のままで、全国をふらふらしていたのかもしれません。

生ごみ堆肥化講習会などでは、面白おかしく堆肥化の説明をし、聞いている人たちを笑わせながら進めていきました。細かい説明を一本調子に話してしまう自分はまだまだ追いつけていないなと思います。

2012 年の北海道大会の時には、夜遅くまでパソコンに向かって作業をしていたようです。比嘉先生からお褒めの言葉を頂いた素晴らしい事例集は、萩原さんの本当に心血を注いだものでした。また、懇親会の食材に関しても、当初はサラダバー的なもので、と考えていたところを、殆どの材料を道内のＥＭ食材で賄い、その時には、道内のあちこちから、萩原さんの頼みなら仕方ない、と言って無償提供してくれた生産者もありました。グランドホテルから出向いて調理を担当した方からも、食材の大切さを勉強させてもらいました、と感謝の言葉を頂きました。

はたから見ると無理、と思うような事例に対しても、臆せず行動しました。

2001 年の小樽運河の浄化では、１ｔタンク 6 基を借り、会員さんのトラックで運びこんで、1 か月余りでＥＭ活性液約３万ℓを投入。延べ 45 人の参加がありましたが、みんな萩原さんの言葉に乗せられて参加した人たちでした。水質改善効果は見られ、役所の人も好感触だったのですが、水質測定前日の降雨により水質が悪化してし

まい、結果的には役所上層部には認めてもらえませんでした。あの頃は、まだ、ＥＭ団子は普及しておらず、残念な結果となってしまいました。

ＮＰＯ法人になることも早くから望んでいました。普及協会として申請に動いてすぐに札幌市からの受託事業「生ごみ堆肥化容器の取り扱い」が始まりました。1 年遅れていたら、札幌市との関係は出来なかったかもしれません。

富良野の今さんが作っている有機ＪＡＳの小麦を使った会員さん手作りのカステラを柳月に届けて試食してもらったこともありました。

道庁の池の透明度を上げよう、と考え始めたのも萩原さんでした。その前に、まずどこかで浄化事例を作ろうと動き始めたのですが､岩見沢の公園の池は１回の投入で、翌年には池ごと改修工事がなされてしまい、投入の継続が出来なくなり断念。どこかで成功事例を作りたいと飽くまでも前向きでした。新篠津村のしのつ湖の浄化のお手伝いにも熱心でした。入院した年から、会員さんが持ち寄った活性液と、１階で作ったＥＭ団子を１０人ほどで新篠津へ投入するようになり、なんとか萩原さんの意思を繋げていこうと思っています。

50 歳を過ぎてからでも後方宙返り（バクテン）が出来たと聞いて驚きました。運動神経も良かったようです。骨密度も高かったようで、焼かれて出てきた骨の量がかなり多くて、喉ぼとけ、胸仏もしっかりと残っていて、骨壺に納めるのに苦労したそうです。家族総出で汗まみれになりながら押し込んだそうです。1 年 10 か月も流動食だったことが信じられないほどで、それまでの食生活の選択の良さを、その時、子供たちもようやく納得したそうです。火葬場へ向かうバスの中は悲しみで沈鬱な空気でしたが、骨の多さで皆ひと汗かいたおかげで、帰りのバスはなぜか穏やかで明るい空気に変わったそうです。最期は、家族みんなに笑顔を演出していったようです。

年齢的には短か過ぎる人生でしたが、人生で関わった人たちに大きな影響を与えて逝ってしまいました。初代理事長の原口さん、２代目理事長の後藤さん、理事経験者のＥＭ酪農の先駆者の寺岡さん、新篠津村の農産物普及に尽力した加藤さん、そば打ちやキムチ作りを指導してくれた竹下さん、事務局長を歴任された渡辺さん、杉山さん、初期の監事だった奈良さんなど、多くの方々がそちらへ行かれていますが、皆様方にはもう挨拶はされましたかね。

そして、萩原さん、これからの最後の大仕事は、比嘉先生がノーベル賞を受賞できるように、世界各国の人たちに声掛けをすることです。どうせなら、2020 年の東京オリンピックの年がいいなあ。日本の皆さんを大きな喜びで満たしてください。よろしくお願いしますよ。そちらに行った時には、浴びるほど沢山飲みましょう。

萩原さんを想う

Web エコ・ピュア編集　鹿島　祐子

エプロン姿のオーナー夫妻を囲んで左端に萩原さん

生前の萩原さんとのエピソードを・・・と、去来するのは北海道におけるエコピュアの仕事の際にいつもいつも温かく、サポートしていただいたことです。(財) 自然農法国際研究開発センター北海道地区普及所の所長さんの立場で豊富な情報を惜しげなく提供してくださり、北海道における多くの人との出会いの機会を作ってくださいました。２０１２年１１月、全国 EM 技術交流会が札幌市で開催されるにあたり、これまでの恩返しにと事例集編集のお手伝いをさせていただきましたが、萩原さんがとても喜んでくださったことが思い出されます。この時に事例発表した宮原光恵さんの取り組みに感動した私は、ぜひ現地を訪ねたいと萩原さんに相談したところ快諾を得て、翌６月に希望者４人車１台に乗り込んだプライベートツアーが実現しました。

札幌から約半日がかりの道のりを、途中花をめでながら、美味しい北海道の味を堪能しながら、朱鞠内に到着。朱鞠内はソバの産地。参加者全員が楽しみにしたのは、ソバの美味しい民宿を萩原さんが予約していてくれたこと。写真は、その民宿前で撮ったものです。翌日広大な畑で作業中の宮原光恵さんにお会いしてお話を伺い、現在 Web エコ・ピュア連載中の「Mt.ピッシリ森の国便り」構想が出来上がりました。

また、別の機会でしたが、萩原さんの運転する車で取材先を移動していた時のこと。見通しの良い農道で行き交う車も少なく、いつものごとく萩原さんはいろいろな情報を話してくれていました。そこへ突然パトカーが現れ、「その車停止するように・・」と告げられ、「何かあったのかしらね‥」などと他人事のように車をわきに寄せると、「停止線で止まらなかった」と有無を言わせず反則切符を切られてしまいました。「どこに停止線が・・」と周りを見回しても後の祭り。確か、萩原さんの持ち点数は限界値ぎりぎりだったような記憶が・・。ここからは、2 人とも違反の反省より「どこに潜んでいたんだろう・・」「全く気が付かなかったね‥」と、姑息な取り締まりに対する憤りで盛り上がったのでした。

現在、私の PC メモリーカードには萩原さんからいただいた「バイオマスシステムへの EM 使用提案」（２００６年３月）、「EM を車輌に活用する」（２０１３年６月）、「EMXG をパン製造に使用」「ワイン酵母パン」（２０１３年１１月）などが保存されています。これらを読み返すと、関わった人たちが如何にしたら報われるかを念頭にした提案書であることに気づきます。“EM 大好き萩原さん”の熱い想いを偲びます。ご冥福を心よりお祈りいたします。

萩原先生との思い出　　(有)システムバイオ　　清杉強

萩原さんとは、EM を通じて２７年の付き合いになります。
当初は、使い方などまったくわからず圃場試験をしていました。
萩原さんと一緒に動くようになったのは、2 年目くらいになってからだと思います。
全道いろんな農家さん・自治体・漁業へ行き EM の話をしました。
夜の懇親会での思い出は、本当にお酒が好きでよくホテルまで抱えて帰ったのを覚えています。これも良い思い出になっています。
いろんな土地へ行って、いろんな人に出会って好きなお酒も飲んですごく楽しかったのだと思います。

2010 年の第１回自然農法技術交流会での写真です。

2008 年ボカシネッワーク・ほろのべの写真です。

２０１２年中標津森の家での写真です。

２０１２年中標津森の家での懇親会

2012 年全国 EM 技術交流会・北海道大会
念願だった EM 北海道大会も大盛況でした。

２０１４年東北大会懇親会にて

まだまだこれからという時に病気になっしまいましたね。
このころから、萩原さんからのメールもなくなりとてもさみしくなりました。
これからも、私たちをみまもっていてください。
楽しい思い出ありがとうございました。
こころより、冥福を祈っております。

萩原俊昭さんの思い出

副理事長　竹下容子

萩原さん、長い間ＥＭの普及に尽力され本当にご苦労様でした。

私の中の萩原さんは、今まで通りにいつもの机で、パソコンに向かっている元気な姿です。

全国ＥＭ技術交流会北海道大会 in 札幌では、「竹下さん、1,000 人集めて大会を成功させよう。」と、ハッパをかけられ、訳が分からないまま動いていたような気がしますが、大成功でほっとしたことを覚えています。
でもその頃、萩原さんは体調に不安を抱えて大変な時期でもあったのですね。
浦崎毅子さんのマッサージを受けながら「僕ね、結構重症なんだよ。」と話された言葉が耳に残っています。

また、ずっと前のことですが、地ビールの会に一緒に行ったことや、岩見沢の公園の池の浄化に一緒に参加したことなど懐かしく思い出しています。

平成２５年の秋からは、ＥＭ栽培の小麦「春よ恋」の全粒粉とワイン酵母の導入に向け準備会を立ち上げました。
「竹下さん、この本読んでね。」と萩原さんから渡された一冊の本、「小麦は食べるな～遺伝子組み換えの恐怖」一気に読み、目からウロコでした。
遺伝子組み換え小麦の知らなかった実態、この本の学習会に合わせトランス脂肪酸や脂肪肝、キングコーンなどについても勉強しました。
パンの試食会を兼ねた会議を重ね、２６年５月に「春よ恋の会」発会、最初は普及協会でパンケーキ、ピザ、クレープ、水餃子作りで多数の参加があり楽しんでいただきました。
ここ２年ほどは厚別南地区センターの調理室をお借りしていますが、こちらには萩原さんはとうとう参加していただけませんでした。

このたびは、ご家族や私も含めＥＭ普及協会の皆さんも残念な思いがあると思いますが、萩原さんの今までのＥＭに対する取り組みをもっと発展させていけるよう活動をしていきたいと思っています。

萩原さんの想い出　　ＮＰＯ法人ひまわり会　わーく・ひまわり　宮田 英次

萩原さんにはＥＭボカシ製造や製造場所の確保など大変お世話になりました。当初は豊平区美園６条８丁目でボカシづくりをはじめ、その後、事情があり、宮田の個人所有地に移り、生ごみたい肥化を試みましたが、これも近隣からのクレームにより頓挫。そして、現在のＥＭ普及協会の１階に落ち着くことができましたのも、ひとえに萩原さんのお陰と感謝致しております。今では年間５トンのボカシ製造が可能になり、ＥＭ活性液培養装置も導入し、江別市東野幌にある畑にＥＭ活性液を散布し、ＥＭを活用した農業を試行しています。また、東野幌の土地を借りる際も、萩原さんに土地所有者の田村様をご紹介いただき、ＥＭ普及協会会員でもある土地家屋調査士の横辻文夫氏にご指導を賜り、江別市農業委員会から農地の許可を取ることができました。現在、５ヘクタールの畑では主にブルーベリー、ミニトマト、ズッキーニ、にんにく、かぼちゃなどを栽培しています。ブルーベリーが実をつけ、収穫できるようになった時にはご家族で畑までおいでになられ、摘み取りを手伝ってくださいました。

お孫さん達を連れて野幌の農園を視察　背中を見せているのが萩原さん

ご生前中には、農業やＥＭについてとりわけご懇意にしていただきましたのに、なんら報いることが出来ず、ただ残念でなりません。ご冥福をお祈り申し上げます。

萩原所長の思い出

元理事　伊藤玲子

私は子供の頃から土いじりが好きで、母の真似をして小さな菜園の片隅にラデイッシュの種を播いて、芽が出るのも楽しく、数個しか出来ない赤い蕪を、母の作る夕食のおかずに使ってもらったのが嬉しかった記憶があります。勿論、化成肥料を使っておりました。

私が初めてＥＭに出会ったのは、３０年ほど前の頃と思いますが、萩原所長の自然農法の勉強会でした。そこで、萩原所長の話を聴き、農薬や化成肥料を使わないで野菜作りが出来ることを学び､こんな素晴らしい方法があるのなら是非やってみようと、ＥＭを使った家庭菜園に取り組み始めました。

まず、ボカシ作りをしようと思い立ち、少量の米ぬかを購入し、ＥＭ－１を霧吹きで糠にかけ、湿らせてビニール袋に入れ物置に保管しました。多分、夏だったと思いますが、２週間ほど経った或る日、物置に行って、その袋を開けて匂いを嗅ぐと、とても良い香りがしていました。　私は「出来た！」と思い、得意になって萩原所長に見て頂きたくて、自然農法センターの事務所に持っていきました。

所長は､「あ、これはまだボカシになっていない」と一言の元に押し返されてしまいました。私は褒めて頂けるとばかり思って居りましたので､「どうして・・？」と大そう不服に思いました。ムッとして、顔にも出たと思います。

そこに､傍にいたＥＭ技研の奈良社長さんも居らして､「うーん､これは未だだ」と、萩原所長と同じ言葉でした。それでも私は納得がいかず、お互いに無言の気まずい空気になりました。その時、奈良社長がすうっと立って、どこかへ行ったと思いましたら、小さな袋を持って戻って来ました。そして､「伊藤さん、これを嗅いでみな」と袋を渡されました。受け取って、私は袋に顔を近づけ匂いを嗅いだ時､「あらっ！」と驚きました。それはそれは素晴らしく香ばしい強烈な発酵臭でした。

私は「これ何？」と二人の顔を見たら「これがボカシだよ」と萩原所長が言いました。私は自分の持って来た袋の中をもう一度嗅いで比較してみると、私の物は、全くただの糠の匂いしかしませんでした。

ＥＭの先生二人を前にして､無知だった私は意地を張っていたのですが､この時程､穴があったら入りたい、と思ったことはありません。

今は亡き、萩原所長と奈良社長の「分かったらそれで良いよ」とにんまりした笑顔が懐かしく思い出されます。

こんな私を、自然農法国際研究開発センターの臨時職員として、平成８年頃から萩原所長の元で２年半程お使い頂きました。大変お世話になりました。

こんなに早いお別れの時が来ようとは思ってもみませんでした。今は数えきれない思い出が蘇って参ります。ここに、そのほんの一片を深い感謝を添えてお捧げさせて頂きます。ありがとうございました。

追悼の言葉　　理事　廣瀬英雄

この度萩原さんの悲報を知り、こんなに早くお別れの時が来るとは、未だ気持ちの整理が出来ません。北海道ＥＭ普及協会にとって大きな主柱を失い、この先普及協会はどちらへ向かえばよいのでしょうか。

普及協会の事務所のドアーを開けると、いつも笑顔で暖かく迎えてくれました。先ず応接セットに座りなさいと必ず言って呉れました。そして熱くＥＭの可能性や将来像を描いて熱く語りました。事務所に寄って、萩原さんのお話を聞くのが楽しみであり又私をＥＭの世界へと深く導いて呉れたのでした。

「結界」「波動」「限界突破」「重力波」「シントロビーの法則」「好気性菌と嫌気性菌」等、聞き慣れない用語を分かり易く丁寧に教えて頂いた事を忘れません。

平成 24 年 11 月 3 日　第 17 回ＥＭ技術交流会北海道大会を成功裡に導き、比嘉教授も絶賛した「事例集」の大作は萩原さんの尽力なしでは完成しませんでした。

ＥＭの普及に心血を注いだ萩原さん、志半ばで残念な事でしょう。残された我々会員が萩原さんの遺志に少しでも近づく事をお誓いし追悼の言葉と致します

萩原俊昭様のこと　　監事　本間弘二

萩原俊昭様との出会いは、私が自営業を営みながら、EM 商品も取り扱っていたころ、ある時、当時「(財) 自然農法国際研究開発センター北海道地区」の所長をされていた萩原様と、当時、NPO 法人北海道 EM 普及協会の事務局長をされていた大西秀男様が、声をかけて下さり、平成 17 年 11 月から「(財) 自然農法国際研究開発センター北海道地区」の職員として採用され、又、同じ事務所内で NPO 法人北海道 EM 普及協会の業務にもお手伝いをさせて頂きました。後に、平成 20 年 12 月から EM 普及協会の職員にならせて頂きました。　萩原所長は、自然農法や EM 関係については北海道の第一人者でありました。専業農家さんも大勢育てられ、EM に関しては特に、環境浄化に数多く取り組まれ、実績を残してこられました。

又、世界情勢にも詳しく、私も多くの学びをさせて頂き、楽しい語らいをさせて頂きました。まだまだこれから一緒に社会奉仕をしていきたいと思っていたのですが、非常に残念で仕方ありません。これからは萩原様の遺志を継いで可能な限り努力をしたいと思っています。　今迄多くのご指導を頂き、誠にありがとうございました。

お別れの言葉　　会員　松田孝子

萩原俊昭先生　永きに亘り、自然農法やＥＭ業務に携わり、ご苦労様でした。私も萩原先生には長年ご指導を戴き、大変勉強になりました。ＥＭなどの業務については、語りつくせない程たくさんご指導いただき感謝いたしております。今後も、先生のご指導を十分認識し、勉強していきたいと思って居ります。

本当にありがとうございました。

萩原俊昭さんを偲んで

旭川 EcoM クラブ西神楽 顧問　高　野　雅　樹

私にとっての“EM”を語るときに、萩原さんを抜きにはできません。
私が EM に強い関心をもち始めたとき、EM について調べていて、どうしても判らないことを書き出し、大本の“EM 研究機構”なら教えてくれるだろう、とそこに電話をかけたことがあります。けっこう冷たくあしらわれたのですが、そのとき、北海道 EM 普及協会の存在を教えてもらいました。「私に EM を教えてくれる人が近くにいるんだ！」と、わくわくしながら普及協会に電話しました。そのときに対応してくれたのが、萩原さんでした。受話器から聞こえてきたのは、あの優しく、温かく、エネルギッシュな声でした。

最初にお電話でお話しした時から、萩原さんのお人柄、温かさを、強く感じることができました。質問にもていねいに答えていただきました。そして、その後も、数々の資料を送っていただいたり、旭川システムバイオの清杉さんを紹介してくださったりして、EM と共に歩もうとしていた私を、力強く応援してくださいました。

特に忘れられないのは、平成 19 年、私が定年退職を迎える最後の年、「もう今年一年しか残されていない！」と、勤務校やその地域に、すさまじい勢いで EM の普及活動を展開していたとき、5 月に、比嘉節子氏による学校と地域住民に向けた講演会を実現させてくださったことです。その後の活動の大きなエネルギーになったことは、語るに及びません。更に、11 月には、地域に所属する 12 校のほとんど全ての管理職と PTA 役員が出席する研修会に、萩原さんが講師として来てくださり、EM について、判りやすく、そして、力強くお話ししてくださいました。その後の私の普及活動が、大きく広がっていったことは、この情報誌の中でご報告してきました。

その、情報誌への私の寄稿が始まったのも、萩原さんの強いお勧めがあったからです。原稿を送る度に、「すばらしい内容でしたよ！」とか、「先生の記事を待っている人たちがたくさんいるんですよ！」などと、必ずお褒めの言葉をくれました。連載で記事を書くことなどは、初めてのことでしたが、今まで続けてくることができたのは、萩原さんの励ましの言葉があったからだと思っています。

お世話にばかりなって、何も恩返しができていないことが悔やまれます。しかし、一つだけはお約束できます。EM のよさを活用し、それを広めていく活動は、可能な限り続けていきます。　そして、萩原さんのことは、決して忘れません！

どうか、ずっと、私を、そして私たちを、見守っていてください。

どうか、安らかに、お休みください。

さようなら。　そして、ありがとうございました。　（合掌）

平成29年度　定期総会　議事録　　平成29年2月19日13時～14時

【平成29年度　定期総会】

1. 司会者挨拶：司会者（本間弘二）の挨拶があり平成29年度総会が開催された。
2. 理事長挨拶
3. 議長選出：事務局一任との声があり、青山律夫氏が選任された。
4. 議長挨拶：青山律夫氏
5. 書記委嘱：植田眞知子、日蔭陽子両氏が委嘱された。
6. 出席者報告、総会設立宣言

本間弘二氏より、当協会正会員109名、本日の出席者22名、及び委任状提出会員36名の合計58名は出席率53.2%で過半数を超えていることにより、平成29年度定期総会は成立する旨を宣言した。

【議事次第】

1. 第一号議案　　平成28年度事業報告及び決算について・・・・・・・別紙-1

・平成28年度事業報告について、浦崎副理事長より別紙に基づき報告された。

環境浄化、新篠津村　しのつ湖：10名参加し、EM団子約700個投入した。

EM廃油石鹸作り：　28年度は6回実施し、2005ケを作りました（竹下）

・決算書について、細川理事長より別紙に基づき各科目について説明された。

※議長より、1号議案について諮ったところ、挙手をもって承認された。

2. 監査報告

・ 小栗尚之監事より、監査につき各帳簿、銀行通帳、伝票類を精査の結果、適正に処理されていることを確認した旨を報告された。

※議長より、監査報告について諮ったところ、挙手をもって承認された。

3. 第2号議案　平成29年度事業計画及び予算について・・・・・・・・別紙-2

【事業】　　EM活性液活用の普及強化:一般の家庭内での有効利用の為、無償提供し、良さを実感してもらう。分かり易い使い方のチラシがあると良い。

※議長：第2号議案について諮ったところ、挙手をもって承認された。

4. 第3号議案　役員退任、新役員推薦

退任　理事:故萩原俊昭理事、高井賢二理事が2月をもって退任されました。

新任　理事：島根典子氏、小栗有矢氏。　　監査：本間弘二氏。

※議長：第3号議案について諮ったところ、挙手をもって承認された。

5. その他

・青木考丹さんから手作り石鹸が無くなると困るので、自分も手伝うので再開してほしい、との要望がありました。それについて、ひまわりさんの方で、石けん作りを検討している、という話がありました。ただ、準備等に数か月かかる可能性がある。

以上をもって議案を全て終了したので、議長は閉会を宣言し、総会は滞りなく終了したことを告げた。　　【閉会】

別紙－1

平成29年度事業計画及び予算書

NPO法人　北海道EM普及協会

事　業

1、定例情報交換会の内容の充実・毎月第2土曜日　13:00～15:00(1月を除く)

情報交換会　2月11日(土)　からだの森鍼灸院　森岡武彦院長

2、第8回　野菜・花のコンテスト＜11月11日（土）予定　収穫祭と同時開催＞

3、EM情報誌の発行　年4回

情報誌にEM活用法を掲載して全国の情報や環境と健康等の対策推進

4、EM農産物等共同購入

5、厚別区民まつり7月及び　札幌市防災訓練(厚別区)8月　への参加

6、環境浄化、　池の浄化　しのつ湖（EM団子、活性液の投入）8月

7、生ごみ処理勉強会への講師派遣　札幌、江別、苫小牧

8、町内会・自治会等へ環境等の取組み（重点地区　厚別・もみじ台地区）

9、10月28日　比嘉先生講演会　　新さっぽろアークシテイホテル

10、春よ恋の会の活動の充実とサロン化

11、EM活性液活用の普及強化

予　算　書

平成29年2月19日

	収　入　の　部		支　出　の　部
科　　目	予　　算	科　　目	予　　算
		給料手当	960,000
正　会　員	192,000	通　信　費	224,000
		水道光熱費	156,000
準　会　員	312,000	会　議　費	12,000
		旅費交通費	45,320
賛助会員	180,000	事務用品費	90,600
		地代家賃	600,000
		租税公課	0
寄　付　金	180,000	諸　会　費	30,000
流通粗収益	1,500,000	リ　ー　ス　料	110,000
(荷造運賃費含		支払手数料	108,000
		雑　　費	99,860
雑　収　入		法人税等	90,000
認証料	830,200	謝礼金	25,000
		荷造運賃費	200,000
事業委託費	280,000	外注費	257,600
		広告宣伝費	20,000
		教育研修費	565,100
		商品破棄損	
		接待交際費	
引当金	119,280		
		繰越金	
合　　計	3,593,480	合　　計	3,593,480

第1号議案

平成28年度事業報告及び決算

NPO法人　北海道EM普及協会

事　業

1.定例情報交換会の内容の充実・毎月第2土曜日　13:00～15:00(1・8月を除く)

　　健康座談会　6月11日(土)　　田中　佳(よしみ)先生

2.道内先進地視察研修会の開催及び参加　道内先進地視察(新篠津村) 大塚農場　平成28年9月10日(土

3.第7回　野菜・花のコンテスト<11月12日(土)　収穫祭と同時開催>

4.EM情報誌の発行　年4回　：　情報誌にEM活用法を掲載して環境と健康等の対策推進

5.EM農産物等共同購入

6.厚別区民祭り会員参加　及び札幌市総合防災訓練(厚別区)への参加

7.春よ恋　の会の活動充実

8.環境浄化、　新篠津村　しのつ湖

9.EM廃油石けん作り（平成28年12月終了）

10.生ごみ堆肥化講習会への講師派遣　10回

決　算　書　　平成28年　12　月　31　日

収入の部					
科　目	予　算	決　算	科　目	予　算	決　算
正　会　員	97口	102口	給料手当	960,000	910,335
	194,000	204,000	通　信　費	224,000	215,820
準　会　員	210口	200口	教育研修費	499,150	471,198
	315,000	300,000	荷造運賃	220,000	205,965
賛助会員	18口	18口	旅費交通費	45,320	32,760
	180,000	180,000	広告宣伝費	20,000	15,000
			会　議　費	15,000	12,490
寄　付　金	10,000	50,100	事務用品費	90,600	110,402
流通粗収益	1,600,000	1,523,117	諸　会　費	30,000	43,500
流通その他	204,000		支払手数料	108,000	108,000
雑　収　入	20,000	0	寄　付　金	0	0
利　　息		319	雑　　費	113,000	105,398
			租税公課	60,000	56,850
認　証　料	798,300	798,100	地代家賃	600,000	600,000
			材　料　費	25000	0
			謝　礼　金	40,000	15,743
委　託　料	486,000	475,003	外　注　費	257,600	267,244
			減価償却	0	0
			法人税	200,000	150,700
			リース料	110,000	111,060
			水道光熱費	186,000	149,934
			繰越金	3,630	-51,760
合　　計	3,807,300	3,530,639	合　　計	3,807,300	3,530,639

資産の部		負債の部		流通の部	
現金	203,761	買掛金	87,600	売上高	7,666,202
預金	2,688,472	未払金	107,039	売上原価	6,143,085
売掛・未収金	383,130	前受金	3,000	粗収益	1,523,117
立替金前渡金	0	仮受金	2,000		
棚卸商品	127,273	未払法人・消費税	206,500		
器具備品	1				
合計	3,402,637	合計	406,139		

上記会計内容を照合監査した結果、相違ない事を証明いたします。

平成29年2月18日　　監事　小栗　尚之　印

情報交換会の予定（第２土曜日）13 時～15 時　担当　細川

４月 ８日　菜園計画と早植え野菜　菜園の土のＰＨ測定
５月 13 日　ボカシによる簡単堆肥化
６月 17 日　天然にがりを使った家庭菜園
（6 月は第 3 土曜日になります）

春よ恋の会　お申込みは事務局まで　定員になり次第締め切ります

ジャガイモを使った三色団子、すいとん作り、出汁の取り方
日時：3 月 26 日　13 時から 16 時
場所：厚別南地区センター　　参加費　実費（数百円程度）

・・・